

# 平成30年度学校版環境ISOの「取組の概要報告」

熊本市立藤園中学校



## 【活動の記録】

宣言項目	生徒	<ul style="list-style-type: none"> <li>・生徒一人一人に環境保全について興味・関心を持たせる。</li> <li>・清掃時のバケツ水使用を100%にする。</li> <li>・学校全体の水使用量、電気使用量を昨年度より5%減を目指す。</li> <li>・水使用量をグラフ化し、掲示することで節水に対する意欲を高める。</li> </ul>
	職員	<ul style="list-style-type: none"> <li>・節水を心掛ける。</li> <li>・節電を心掛ける。</li> </ul>
行動	生徒	<ul style="list-style-type: none"> <li>・呼びかけのポスター作成や意識を高める掲示の工夫を行う。</li> <li>・緑のカーテン作りを行い、室温を下げる取組を行う。</li> <li>・清掃時のバケツ水使用100%を目指す。環境委員会で呼びかけ及びチェックを行う。また、テープで水を入れる位置を示すようにする。</li> <li>・花壇への水やりはじょうろで行う。</li> </ul>
	職員	<ul style="list-style-type: none"> <li>・空調設備の利用は、必要最小限にする。</li> <li>・集会の時間を活用して、生徒への積極的な呼びかけを行う。</li> <li>・教師が率先して節水を行う。</li> </ul>

(1) 生徒総会では、環境委員会より今後の取組について説明し、全生徒に目標を達成するよう呼びかけた。



環境委員長より今年度の取り組みについて説明を行った。その中で昨年度と同様に、学校全体で水道使用量及び電気使用量を前年度比5%減を目標として掲げた。

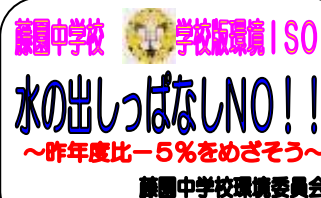
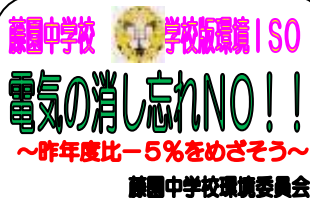
水道があるところと全ての電源やスイッチに節水・節電を呼びかける掲示を行い、生徒一人一人への周知を図った。



全てのスイッチに掲示することで、生活の中で常に節電を意識することができた。



左記のような呼びかけの掲示を、校内のすべての蛇口に貼り、生徒一人一人の意識を高めていった。  
(校地内すべての蛇口に300枚掲示)



記

具体的な取組として、手洗い・うがい・歯磨きは水を止めて行う、ぞうきんはバケツを使って洗う、などの呼びかけを行った。また、花壇の水やりはじょうろの使用を奨励したので、使用率が大幅に上がった。また、雨水を有効に活用するよう声かけしたので、花壇への水やりは雨水の使用が大幅に増えた。

録



前年度までの取組を継承し、今年度もじょうろの使用を奨励した。じょうろの使用率がさらに上がり、節水することにつながった。また、雨水タンクの活用も積極的に行なった。



バケツの使用を積極的に行なった。また、水色のテープで水を入れる量の目安を示し、無駄遣いを減らすことができた。



昨年度と同様に、「緑のカーテン作り」として、ヘチマ等を数本植えた。1学期末になると、2階まで完全に覆うことができ、室温を下げる役割を果たすことができた。

(2) 一人一人の取組として、環境標語やエコカード記入を行った。

6月と11月に1週間ずつ環境週間として生徒に呼びかけ、6月に環境標語の募集とエコカードの実施、11月にエコカードを実施した。エコカードについては、2回行うことで比較させ、意識の向上を図った。



年間2回、エコカードを記入し、個人としての取組を振り返らせた。記録を残し比べることで、課題が明確になり、その後の取組につなげることができた。回収率が前年度よりも若干下がったことは今後の課題であるが、取組を継続することで、環境保全に対する意識向上を図っていく。

個人の結果を集計し、事務室前に掲示した。学級ごとの平均値を算出し、前回と比較することで、その後の活動意欲を高めることができた。また、それぞれ、活動に対しての感想を書かせることで、活動が意義あるものになった。



学級通信等で取組の様子を紹介していくことで、家庭の中でも環境問題について考える良い機会となった。

(3) 月別使用量について

月別の水道及び電気の使用量を表したグラフを生徒昇降口前に掲示した。昨年度の使用量と比較できるように工夫することで、現段階での使用量について昨年度と比べることが容易になった。比べながら今後の取組の方向性を考えることができた。



ここ数年間は、「水道使用量昨年度比5%減」を目標に取り組んできてきた。月によってばらつきはあるものの、少しずつ減ってきている。今後は、使用量減だけではなく、有効な使用方法についても検討を重ねていく必要があると考えられる。

(4) 緑化活動の推進について

本校の緑化活動の一つに、40年以上の歴史を持つ「肥後菊」の栽培がある。本年度は、緑化委員会で菊を育て、数多くの花を咲かせることができた。4月の挿し木から、5月のポット植え、6月の定植と段階をおって育てることで、豊かな情操を養っている。今年度は、鉢植えよりはプランター植えの方に重点を置いた。



古い土をふるいにかけて、再利用を行った。様々なもののリサイクルについても、意識を高めている。



今年もたくさんのお花を咲かせ、見る人たちの心を和ませている。

(5) 学校職員の取組

職員の共通理解として、裏紙の積極的な利用や空調設備の使用の仕方等について、年度初めの職員会議の中で提案があった。消耗品等の使い方など「節約」についての意識を高めると同時に、「再利用」等の意識も同じように高めることができた。全職員が同じ意識で取り組むことで、一定の成果を上げることができた。

知的障害学級では、「ペットボトルの花びん作り」を行った。廃棄されたペットボトルに装飾し花びんとして、校内に飾った。



(裏紙の積極的な利用)



(切れ端の活用)



(ゴミの分別)

成果(○)と課題(●)

- 水道のある場所に掲示物を提示したりすることで、水道の出しっぱなしが以前よりも減ってきている。また、掃除時のバケツの使用やじょうろの活用及び雨水の使用についても積極的に行うことができた。
- 節電に関しても、全学級で「消し忘れゼロ」を目指して取り組むことができた。
- ほとんどの職員が、節水・節電に意識的に取り組んでおり、積極的に生徒への声かけを行うことができた。
- 環境委員会で、一学期と三学期に、校内美化コンクールを実施したが、掃除に対する生徒の意識・意欲が向上し、無言掃除も徹底化することができた。
- 緑化委員会の活動で、年間を通して「そこかしこに花が咲く学校」になってきている。
- 全体的には環境問題に関心を持って取り組む生徒が多くなってきている。さらに集会などでも生徒の言葉で訴えていくことで、学校全体の雰囲気を変えていくことが必要である。また、環境 ISO の取り組みについてもさらに周知徹底が必要である。